

令和6年度 自己評価報告書

令和7年3月6日

学校法人小泉学園 東京いづみ幼稚園

1. 本園の教育理念・教育方針・教育目標

【教育理念】

幼児期に適切な教育を与え、優れた人格を育む

【教育方針】

①適時教育の充実

年齢や発達に応じて教育内容を豊富にし、適切な指導法で子供が主体的に活動に取り組めるようにする。

②チームティーチングの実践

クラス担任を中心に、専任講師、担任交替（年に数回、一週間程度）、外部機関などが連携協力し、きめ細やかな指導を行う。

③年間行事の活用

年間の諸行事を活用することで豊かな生活体験の場を与え、幼児の活動意欲と技能の向上を図る。

【教育目標】

- | | | | |
|--------|----------|---------|--------|
| ・健康な身体 | ・素直な心 | ・豊かな感性 | ・優れた知力 |
| ・温かい友情 | ・搖るぎない自立 | ・創造的な協働 | |

『いづみの子』 ※園児に教育目標を分かりやすく伝え、皆で唱和する訓辞として制定

- | | | |
|-------------|-------------------|----------|
| ・強い体と心を持とう。 | ・仲良く遊ぼう。 | ・よく考えよう。 |
| ・豊かな心を持とう。 | ・今日も一日元気に過ごしましょう。 | |

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園が掲げる教育理念・教育方針のもと、教育目標の達成を目指し、子供の育ちを一番に考えた質の高い教育を実践することを目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程・カリキュラム理解を深め、実践力を高める	A	<ul style="list-style-type: none">・担任交替や年間行事でのクラスの垣根を取り払った活動の展開などを通して、教職員が教育課程ならびにカリキュラムへの理解を深めることができた。・姉妹園との連携を深め、該当学年同士の実地での教育研修、ビデオによる振り返りを計画的に行った。特に、姉妹園からの研修受け入れにより、半学半教の成果を得る機会となった。
2	園教育の情報発信力の向上	A	<ul style="list-style-type: none">・園HPのリニューアル、公式インスタグラムの運用の本格化により、園保護者や入園希望者への情報発信に努めた。・1学期中に全園児保護者との面談をクラス担任が行い、園児に関する情報共有を行った。また、必要な保護者にはその後も継続的に面談機会を設け、子育ち支援を行った。・昨年10月に園教材、3月に園長著書発売、脳科学者との対談

			記事の雑誌掲載など他の園ではなし得ない教育成果の発信をすることができた。
3	ICT 活用による業務効率の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アプリならびに園児システムの導入により、業務効率の向上を図った。想定よりも混乱なく導入することができ、システム障害発生時の対応も適切に対応できた。 ・一方、本来の目的である業務効率の向上には、ICT 活用だけでなく、業務の見直しによるムダ取りが必要なため、継続的な取り組みが必要である。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	上記の評価項目については、概ね成果を挙げることができた。今後も、園全体として自己評価に取り組むことで、園運営の改善を継続することを確認した。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題項目	内容・具体的に取り組む方法
1	教育力の更なる向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容について検証を行い、教育方法の更なる改善に取り組む。 ・教職員の資質向上策として、引き続きビデオ研修や振り返りを通して、指導力の強化に努める。 ・それぞれの教職員の特性とキャリアを踏まえ、チームとして成果を産み出すことが組織力であることを念頭に、結果と客観的評価に重きを置いた企業風土を醸成する。
2	園教育の情報発信力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や入園希望者に対し、園が実践する教育内容やカリキュラムを通して育つ子供の資質について、更に分かりやすく情報発信するように努める。具体的には、園 HP の更新・見直しを継続的に行いつつ、園パンフレットや園紹介動画を新たに作成する予定。 ・市販された園教材、園長著書などを園広報に積極的に活用することで、園の教育理解につなげていく。
3	バックオフィス業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・園を支えるバックオフィス業務を改善し、その成果を保護者や教職員に還元できるようにする。具体的には、園児システムの改修、広報・採用での生成 AI 活用、自動化に取り組む。

東京いづみ幼稚園学校評価委員会

園長 小泉 敏男

副園長 小泉 貴史

事務長 吉野 秀幸

教諭 瀧口 久美子

以上

令和6年度 学校関係者評価報告書

令和7年3月14日

学校法人小泉学園 東京いづみ幼稚園

出席者 【学校関係者評価委員会】 佐藤 弘子、矢澤 憲治、河野 吉孝
【東京いづみ幼稚園職員】 小泉敏男園長、小泉貴史副園長、吉野秀幸事務長

◆自己評価について

- ・令和6年度の自己評価について、副園長から自己評価報告書に基づいて説明を行った。また、添付資料として園パンフレット、教材、園長著書、各学年の年度末反省などの資料を付した。

◆学校関係者評価委員の意見

- ・少子化や保育園利用世帯の増加により、今年度の年少は3クラスとなったが、教育面においては大変優れた成果を上げることができた。これは、園が大切にしている「適時教育」が浸透している証であり、今年度においても「教育の再現性」が示された結果である。
- ・園の掲げる教育理念・教育方針・教育目標を実現するために、具体性のある教育方法を開発・実践することが園全体で共有されており、それを支える教職員の資質向上にも努めていることが窺える。また、今年度は教職員の退職も少なく、更なる教職員の指導力向上にも期待するところである。
- ・来年度創立50周年を迎える節目を前に、園長先生の著書が出版界で著名な講談社から刊行されたことは、大変意義深いものである。園の存在意義は、子供が成長できる確かな教育方法の提供にあり、それを通して子供が成長することが家庭の幸福に直結している。これが一地域でなく、全国の家庭に向けて発信できたことは大変な成果である。
- ・来年度の入園者数は前年度よりも回復すると聞くが、今後も少子化と保育園利用世帯の増加は続くと見込まれている。厳しい外部環境は事実だが、その中でも幼児教育の意義は失うものではなく、むしろますます重要である。今後も「いづみ」らしい子供の育ち第一の園づくりを継続し、更なる発展を願いたい。

以上